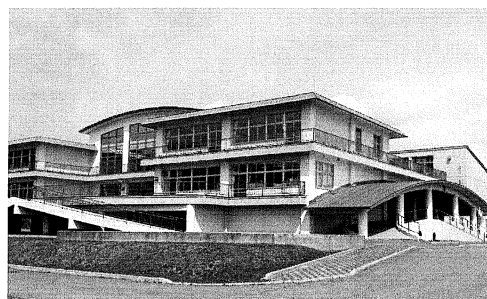


# 令和3年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：檜山地区
- 2 事例報告学校名：奥尻町立青苗小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 吉岡 栄
- 4 キーワード：防災教育

## 1 はじめに

奥尻町は、北海道の南西部に位置し、檜山管内江差町より日本海上61kmに浮かぶ離島である。平成5年7月12日には、「北海道南西沖地震」が発生し全島にわたって壊滅的な被害を受けたが、全国からの温かい支援と島民の不屈の努力により、平成10年3月には完全復興を宣言した。



## 2 青苗小学校の概要

青苗小学校は奥尻島の南部に位置する農漁村地帯である。しかし、近年の自然環境や社会の産業構造の変化から他の職業へ転職する世帯も増えている。また、児童数も減少傾向にあり、今年度の児童数は32名、PTA戸数は25戸、教職員は13名となっている。

現在の校舎は震災後に建て替えられ、防災を意識した構造となっている。上の写真のとおり、3階建てとなっているが、1階部分はピロティ構造である。壁で囲わず柱だけの外部に開かれた空間になっているため、万が一の津波の際にも1階部分を水が通り抜ける仕組みとなっている。また、全ての教室から直接外に出ることができ、災害時、素早く避難できる構造となっている。

北海道南西沖地震被災から28年を迎えたが、その教訓を風化させないために防災教育の充実に努めている。

## 3 防災教育年間指導計画の作成

青苗小学校では、安全教育全体計画をもとに防災教育年間指導計画を作成している。避難訓練等の直接的な指導のほか、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の年間指導計画と関連付けて作成に当たるなど防災教育の教育課程への位置付けを明らかにしている。

特徴的な点として、震災被害を受けた当時の児童らが綴った北海道南西沖地震災害作文集「悲しみをのりこえて」を教材とした学習が行われている。



青苗小学校 防災教育年間指導計画 (抜粋)

	4 月	7 月	8 月
防災関連行事	校区内通学路安全確認 登下校指導 交通安全運動	避難訓練(1日防災学校) 夏休みの安全指導	水泳学習 遠足 避難訓練(奥尻町防災訓練)
	安全な学校生活を送るため	自然災害(地震)から身を守るために1年生	
1年生	「春の通学路」生 「道路を歩くとき」学 「学校の決まり」学	「安全な生活」生 「どうしてかな」道 「悲しみを乗り越えて」道 「楽しい夏休み」学	「夏を感じよう」生 「水に慣れる遊び」体 「遠足の計画」学
2年生	「まちが大好き探検隊」生 「ぼんたとかんた」道	「夏休み」生 「あぶないよ」道 「悲しみを乗り越えて」道 「夏休みの過ごし方」学	「水に慣れる、もぐる遊び」体 「笑顔の秘密探検隊」生 「遠足の計画」学

## 4 家庭や地域と連携した防災教育

### (1) 地震津波を想定した避難訓練①（1日防災学校）

毎年7月12日に地震と津波に対する避難訓練を実施している。本校裏山に海拔25メートルの高台があり、全校児童が避難している。目標タイムは津波到達時間の目安、3分以内としている。今年度はこの日に合わせて1日防災学校を実施した。感染症対策として規模を小さくして実施した。1コマ目は避難所体験を行った。町防災担当者の協力で簡易寝袋や段ボールベッド、発熱者用テントの体験、災害非常食の試食など、様々な体験を行った。2コマ目は、各学級で防災に関わる授業を行った。1年生は生活「防災カルタで学ぼう」、2・3年生は図工「かんたん手作り防災グッズ」、4・5年生は道徳「防災について考えよう」、6年生は道徳「『悲しみをのりこえて』から学ぼう」である。どの学級も災害に備えるための意識付けがしっかりとできていた。

※2・3年生図工「かんたん手作り防災グッズ」（授業のおおまかな流れ）

- ・災害が起きたとき、自分の身を守るために必要なことを振り返る
- ・避難した後、困ることはどんなことがあるだろう（目標）
- ・新聞紙で作るスリッパ。紙で作るコップやお椀（工作）
- ・感想や分かったことを記入・発表



### (2) 地震津波を想定した避難訓練②（奥尻町防災訓練）

8月下旬には、奥尻町防災訓練が行われている。シェイクアウト訓練・住民高台避難訓練など町内全域を対象としている。本校では、実施時間が例年休み時間にあたるため、児童一人一人の判断で裏山に避難するという訓練を行っている。児童にとっても教職員にとっても7月の訓練からステップアップした内容となっている。

### (3) 地震津波を想定した避難訓練③（下校時避難訓練）

9月には、下校時における避難訓練を実施している。町の防災無線で地震の発生と津波警報を放送していただき、下校中、自分がいる場所から最寄りの避難場所を判断し、避難するという内容である。自らの命を守ることを最優先にしながらも、上級生が下級生に声掛けするなどの行動が見られた。避難完了を確認後、メールシステムで保護者に訓練終了の連絡をしている。

### (4) 地域の防災施設を学ぶ活動

中学年の取組として、保護者や消防署、駐在所の協力をいただき、地域の防災施設を調べ、防災マップづくりに取り組んでいる。万が一の際に自分の命を守る方法・手段の幅を広げることに繋がっている。昨年度は、自分たちが利用する公園から、高台までの避難時間を測定した結果を防災マップにまとめた。

## 5 おわりに

「震災の教訓を風化させない」という言葉を念頭に置き、学校として継続的に防災教育を進めている。本校のみならず奥尻町全体としての取組が子どもたちの防災意識を高めている実感がある。特に地震、津波に関しては、自分で判断して行動する力が身に付いていると感じられる。

島の多くの子どもたちは、進学や就職を機に島を離れていく。日本全国で考えると地震、津波以外にも様々な自然災害が起こっている。将来にわたり子どもたちが「自分の命は自分で守る」という意識をもち続けてほしいと願っている。